慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 質問に対する回答回避発話：ドラマのシナリオを例に |
| Sub Title | |
| Author | 田中, 妙子(Tanaka, Taeko) |
| Publisher | 慶應義塾大学日本語・ 日本文化教育センター |
| Publication year | 2016 |
| Jtitle | 日本語と日本語教育 No.44 (2016. 3) ,p.103- 113 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 調査報告 |
| Genre | Departmental Bulletin Paper |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20160300-0103 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学　日本語・日本文化教育センター紀要
『日本語と日本語教育』44：103-113（2016.3）

# 質問に対する回答回避発話

## ―ドラマのシナリオを例に―

田　中　妙　子

### 1.　研究の目的

次の会話は、A という人物が、泣いている B という人物とやりとりをしたという設定である。

A「どうしたの？」

B「何でもない」

発話行為という観点からこの会話を見た場合、A の発話は質問であり、B の発話はそれに対する答えということになる。しかし、B が泣いているという状況から A は B に何らかの問題が起きたと推測し、泣いている理由に関する情報を要求しているが、B はそれに対して適切な情報を与えていない。ここで B が実際に伝達しようとしているのは、「何事もなかった」ということではなく、「A の情報要求に対して情報を提供したくない」という意図である。

このように、会話の中には、発話行為としては質問と応答という形であっても、質問に対して適切な情報を提供せず、「情報の提供をしない」という意図を何らかの方策を用いて伝達する発話が見られる。ここではそれを回答回避発話と呼ぶ。

日本語教育においては、一般的に質問と回答が対をなすものとして捉えられるが、学習者の実際の会話の中では、何らかの事情で回答を避けたいという意図を言語化しなければならない場合もある。本稿では、そうした場合の表現を教える一助として、この回答回避発話の方策を調査した結果

を報告する。

## 2.　回答回避発話の定義

回答回避発話は、質問発話に後続するものである。質問発話は、ここでは情報要求、確認要求、同意要求を意図した発話とする。また、「教えてください」「説明していただきたいのですが」等、情報の提供を要求する発話も含む。更に、「～かしら」「～かな」など、疑いを示す発話が会話の中で質問の機能を帯びる場合も含む。

回答回避発話は、上記に該当する質問発話に回答しないという意図を、相手にわかるように言語化した発話と定義する。したがって、真実を隠すために、相手に悟られずに嘘をつく場合は、回答を避ける意図が相手に伝わらないため、調査の対象外となる。

## 3.　用例

テレビドラマのシナリオを資料として、第 2 章の定義に該当する発話を採取した。調査に用いた用例資料は稿末「用例資料」に詳細を記す。

## 4.　調査結果と分類

全体で 73 例を採取した。採取した用例を、回答回避の方法の違いによって暫定的に①～⑨の 9 項目に分類した。

①回答しないということを明示的に述べる

②回答しないことの理由を述べる

③回答の必要性がないことを述べる

④相手の質問に関連することを述べる

⑤回答の代案を示す

⑥曖昧な回答をする

⑦曖昧な述べ方をする

⑧明らかに事実ではない回答をする

⑨質問と全く関連のないことを述べる

以下にそれぞれの方策を述べ、用例を挙げる。

### 4-1　回答しないということを明示的に述べる

回答しないということを明示的に言語化する。「答えない」「答えたくない」「答える必要がない」というような内容のことを述べている。

注：以下、表の［　］内は筆者による補足説明。

| | |
|---|---|
| 本当 53 | 大高「どんな事情？」　元洋「**それは申上げられません**」 |
| リーガル 78 | 黛「裁判、やっぱりアレかな……このままだと無罪ってことになりそう……かな……」羽生「（笑って）**そんなこと僕が言えるわけないじゃないですか**」 |
| 白洲 157 | 文平「大切なもんてなんや」次郎「**そんなもん、面と向かって親に言えるか**」 |
| 4TEEN73 | ナオト「ダイは今、どんなですか」島田「**悪いけど、そういうことには答えられない**」ジュン「ダイはどうなるんですか？」島田「**それも、私が答えることじゃない**」 |
| マチベン 116 | 友永「それは、事実を認めるのですか？　それとも、争うのですか？」涼子「**私は、何も話したくありません**」 |
| マチベン 138 | 涼子「違うんですか？　じゃあ、どうして彼は知ってたの？　目にすら入らなかった女の子の親が借金まみれだって……」神原「（辛うじて）**……答える必要はありませんね**」涼子「（確信して）そうですか……。では、この話はここまでにします。次回の法廷でお会いしましょう」 |

### 4-2　回答しないことの理由を述べる

回答しない理由を述べることによって、暗示的に回答する意図がないことを示す。

| | |
|---|---|
| 長生き 58 | 白石「そんなこたァないよ。また規ちゃんの肋木体操が見れるって、大喜びさ」規子「肋木体操？」白石「あ、いかん。**これは男同士の秘密だったんだ**」 |
| 火の魚 26 | 村田「何だ？　なんの病気だ ?!」伊藤の声「**実はそのう、折見が先生にはお伝えしないで欲しいと**」 |

| | |
|---|---|
| 女王 227 | 校長「阿久津先生がどうかしました？」しおり「あの、どうして二年も教職を離れてたんですか」校長「（急に罰悪そうに）**あ、すいません、私はちょっと、教育委員会の方に電話しなきゃいけないんで**……（逃げるように去って行く）」 |
| 本当 91 | 章次「ほんとのことって、なんだ」朝美「――」章次「なんだ」朝美「**いわないのが、パパのやり方でしょう**」 |
| ミエル 126 | 剛「親父はどう分かるんだよ」幸介「あ？」剛「どうしてここから離れないんだよ。あん時も今もさ。八つ目なんかほとんど採れないっていうのによ」幸介「**今それどころじゃねぇ**」 |

### 4-3　回答の必要性がないことを述べる

あえて回答する必要がないということを述べて、回答する意図がないことを示す。「いい」「結構だ」という表現が挙げられる。

| | |
|---|---|
| うみの 26 | 明海「あんたは……あんた、なんで帰ってきたの？」（中略）明海「じゃ、なに？」光二「……」明海「なによ、話しなさいよ」光二「**いい……**」 |
| 大麦 25 | 徹郎「で、なんだ？」浩一「えっ？」徹郎「何か言いかけたろ」浩一「**いや……いい……**」 |
| 光抱く 62 | 千枝「手紙？　なんね、それは？」（中略）千枝「誰の手紙だって？」涼子「**いいんです、もう**」千枝「そうはいかん。言わんにゃ、誰か」涼子「……三島先生（小声で言う）」千枝「そりゃ誰ね（すごむように問い返す）」涼子「**もう、忘れて下さい**」 |
| 恋せ 188 | 雪緒「どうしたの？」音羽「（金沢弁で）お母さんが」篠「（遮って）（金沢弁で）山崎さんとの結婚、あれ、ないがになってん」雪緒「え――っ」篠「（金沢弁で）山崎さんとも話し合って、白紙に戻すことになったんや」雪緒「何があったのよ？」篠「（金沢弁で）**理由なんてどうでもいいがいね。もう決めたことやさけ**」 |
| 本当 55 | ［電話］章次の声「朝美（返事がない）朝美」朝美の声「（明るく）うん？」章次「なんかあったか？」朝美「**いいの**」 |
| ミエル 132 | ［なぜこの町にいるのかと聞かれて］サキ「剛君は、どうして、この町に戻ったの？」剛「質問に質問で返すなよ」サキ「だって一度出られたのに」剛「**いいよ俺のことは。**教えてくれよ。知りたいんだよ、俺」 |
| 恋せ 180 | 純市「仕事、辛んどいのか？」雪緒「まあね」純市「しゃべれよ、聞いてやるから」雪緒「**結構です、自分で何とかしますから**」 |

### 4-4　相手の質問に関連することを述べる

相手が質問したことについて何らかの言及をし、回答する意図がないことを示す。相手の質問に対する疑問や非難を示す、相手がこれ以上の発話を続けることを止めるといった方策が挙げられる。また、質問した相手に対して謝罪するという方策も見られる。本項目には様々な方策が含まれるため、より多くの用例を集め、更なる分析を行いたい。

| | |
|---|---|
| 祖国 108 | 小野寺「あの言葉を撤回するのか。それとも忘れたのか」山崎「**そんな言い方をするなよ、あんまりだよ**」 |
| 楽園 187 | ［電話］優「結果はどうだった？」高柳の声「**なんで君にそんなこと教えなくちゃなんないの？**」 |
| マチベン 159 | 涼子「そうですか……。ご結婚されたことは？」新田「**……裁判に必要？**」 |
| 不機嫌 237 | 仁子「なんで、こないだ言ってくれなかったんですか？」南原「言ったら何かが変わった？」仁子「……」南原「最後にキスさせてくれたとか」仁子「**ふざけないで**」 |
| 本当 72 | ［章次がノートについて尋ねる］朝美「こんなの、知らないよ」章次「ああ。それはそうだろう」朝美「**パパしつこい**」章次「ただ、こんなノートがあったって、お母さんが――」朝美「**パパしつこい**」章次「――」朝美「関係ないっていったでしょう」章次「そうだけど――」朝美「こどもを信じてよ」章次「なぜお前の名前なのか」朝美「**パパしつこい**（と自分の部屋へ）」章次「――」 |
| マチベン 139 | 涼子「あれで、気がすんだんですか？」みゆき「**あんたには関係ないわ**」 |
| ミエル 114 | 剛「やめたんだよカメラ」サキ「え、どうして？」剛「**関係ねぇだろうがよ、てめぇに。**いいから帰れよ」 |
| 官僚 86 | 朝原「何がフリーウェイだ。そんな夢みたいな話」日向「しかしお義父さん、実現したら凄いですよね」朝原「**……うるせえ黙ってろ！**」 |
| 本当 54 | 大高「やっぱり事情を聞きたいわ」稲田「聞きたい」（中略）元洋「みなさんは、そんなに事情を聞きたいですか」稲田「聞きたい」元洋「それで人と人がどんなに傷ついてもですか。ユニフォームは大至急製作に入っています。それでも事情が大事ですか？　いえないこともいわなきゃいけませんでしょうか？（有無をいわせない迫力で）**申し訳け―申し訳けありませんッ**」 |

| | |
|---|---|
| ミエル 128 | 剛「なんでここに残るんだよ」幸介「**自分で考えろバカ野郎**」 |
| 光抱く 35 | ［電話］三島の声「なぜだ？　はっきり言え」勝美「**すみません**」三島「何度同じことを言わせるんだ！　顔を上げてみろ！　何だぁ、その目は!?　俺を馬鹿にする気か！」勝美「**……すみません**」三島「女だからと思って手加減しておけばつけ上がりやがって！　えっ、すみませんしか言えんのか！　こら！　こっちを向かんか、この野郎！　本心じゃ何を考えてる？　俺のことを何だと思ってるんだ？　言ってみろ！　この口を開けてなにか言ってみろ！」勝美「**すみません**（反抗の響きがある）」 |

### 4-5　回答の代案を示す

直接的な回答をしないことについて代案を示す。行為の代役を立てる、回答の機会を改めるといった代案が見られる。

| | |
|---|---|
| 火の魚 25 | 伊藤「近々そちらへお持ちしたいのですがご都合の方は……は、折見でございますか？　**えーと、私ではいけませんでしょうか……？**」 |
| 六月 92 | みづき「理由を聞かせてください」岡村「（言葉を濁して）**追って、派遣会社のほうに連絡を入れますんで……**」 |
| 大麦 15 | 文子「（美和子に）全国に流れるから嘘はつきたくないって、どういう意味？」美和子「……（助けを求めるように浩一を見る）」徹郎「なんだ？　どうした？」文子「浩一」浩一「**……それは……また今度でいいよ。**仕事、仕事（梯子を登ろうとする）」 |
| ミエル 123 | 幸介「じゃぁ、それこそなんでここに戻ったんだよ。お前の言う通り腐ってるぞ、この町は。時間がなんだかとまっちまったみてぇな退屈な町だぞ。んなこたぁ帰らなくても、少しは分かってっだろうが。そこに戻ってきてお前、何をしようってんだよ」剛「**シラフになったら話そうよ。そういう事はさ**」 |

### 4-6　曖昧な回答をする

直接的な回答をせず、曖昧な内容で答えることによって、回答する意図がないことを示す。

| | |
|---|---|
| 本当 91 | 章次「なにを話した？」朝美「**いろんなこと**」章次「どんな――」朝美「大丈夫」 |

| | |
|---|---|
| ミエル 110 | 幸介「なんだよ、お前」剛「え？」幸介「どうしたんだよ、いきなり」剛「**いや…帰って来ただけだけど**」 |
| 火の魚 26 | ［電話］伊藤の声「それがですね……実は折見の方が、その、ちょっと入院いたしまして……」村田「入院？」伊藤の声「はあ」村田「何で？」伊藤の声「**いやまあ、よくある病気でございます**」 |
| 点と線 103 | 鳥飼「大好きな夫が、自分がいなくなったあと、別の女と再婚するのかと思うと、仕方がないと思う半面、どうしても、いやだと思う人もいるでしょうね」亮子「**さぁ、それはどうでしょう**」 |
| 白洲 143 | ミヨシ「英語のできん英語の教師を殴るいうことは、正しいことか、正しくないことか……」次郎「……」ミヨシ「正しいいう文字は、一つのところに止まる、と書きます……わしら職人は、一つのところに止まってなんぼや。10 年かかって、ようやくそれらしい道が見えてくる……」次郎「禅問答か？」ミヨシ「（にやりと笑って）**さあ、どうですやろな**」 |
| 火の魚 26 | 村田「よくある病気？　たいしたことないのか ?!」伊藤の声「たいしたことは……**うーんまあ、どうでしょう**」 |
| 点と線 63 | 鳥飼「男にとっては都合のいい女でしたよね」安田「**それはどうでしょう、私にはよく分りません**」 |
| 本当 68 | 章次「死んだ川本里花さんと、なんかあったのか？」（中略）章次「おととい、電話で、あの子が自殺したっていったとき、朝美は、ショック受けているみたいだった」朝美「誰だって、そうじゃないかな」章次「そのあと、朝美は、明るくしている。なんでもないようにしている。パパには、わざとそうしてるように見える」朝美「（はぐらかして）**よく分かんない**」 |

### 4-7　曖昧な述べ方をする

肯定とも否定ともつかない表現をとり、明確な回答を避けることによって、回答する意図がないことを示す。

| | |
|---|---|
| センセイ 86 | ［小松は実際は太っている］小松「調べてもどっこも悪くないんですけど、私。痩せましたでしょ？」月子「**はあ……**」 |
| あかね 130 | おふみ「どうしたの榮太郎？」榮太郎「（かすれて）**いえ……**」 |
| 点と線 32 | 鳥飼「なンですか」三原「**イヤ……**」鳥飼「仲間が何か言ったンでしょう」三原「失礼しました」 |
| 恋せ 190 | 雪緒「お子さん達は、山崎さんと母との結婚に反対なんですか」山崎「**いや……**（曖昧）」 |

| | |
|---|---|
| 長生き 35 | 吉沢「あんた、昨日の真っ昼間、若い女のコの前で水戸黄門気取ってなかったか？」白石「**え？　ああ、まあ**」 |
| シュー 35 | 園枝「電車がどんどん増えて、つらかった？」一郎「え？　**……いや……ハハハ……ま、まあな、ハハハハ、ハハハハ**」と、笑いでごまかす。 |
| 女王 270 | 真矢「もしかして、校長先生達に言われました？　学年主任の方からも、わたしに厳重に注意しておくようにと」平三郎「**（図星）……アハハ、まいったなあ**」真矢「ご心配なく。どんなことがあっても、責任を取る覚悟ぐらい出来てますから」 |

### 4-8　明らかに事実ではない回答をする

状況から予測される答えと明らかに異なる答えを述べることにより、回答する意図がないということを暗示する。「何もない」「何でもない」「大したことはない」「知らない」「忘れた」といった表現が見られる。

| | |
|---|---|
| あかね 120 | 傳蔵「ふうん……平田屋さん、あんた何考えてる？」平田屋「**何も**」傳蔵「（見通した目で平田屋を見て笑う）」 |
| 教科書 258 | 瀬里「何を焦ってるんだ。まるで何かに追われてるみたいに仕事して……何かあったんじゃないのか？」珠子「**別に何も……**」瀬里「結婚相手にも話せないことなのか？」 |
| 本当 91 | 章次「なにを聞かれた？」朝美「**なんにも**」章次「なんにもってことはないだろう」 |
| 風に 194 | 浅井「どうしたん」瑞希「（慌ててカルテを閉じ）**いえ、何もありません**」浅井「何もないことないやろ。何？　井上さんのカルテ見て」瑞希「いえ、病状どないかなと思って」浅井「見てたの一番前のページやないの」瑞希「え」浅井「そんなとこに病状なんて書いてないよ」瑞希「**何もありません。**失礼します」 |
| 風に 196 | 瑞希「あの……、突然で申し訳ないんですけど、井上さんの担当はずしてもらえませんか」浅井「え、何があったん」瑞希「**何もありません**」浅井「ないわけないやろ。昨日、蒼い顔してカルテ見てたやないの、井上さん」 |
| リーガル 78 | 服部「何かあったんですか？」黛「**いいえ……ショックな事なんか何もありません**」蘭丸「ショックなことあったんだ」 |
| あかね 143 | 秀弥「その歌が何か？」傳蔵「**いや……何でもねえ**」 |
| あかね 144 | ［おふみが思い出し笑いをする］悟郎「どうしたの？」おふみ「**何でもない**」 |

| | |
|---|---|
| あかね 148 | 傳蔵「で、拐かされた場所は？」平田屋「確か、亀戸の天神様だと」傳蔵「……」平田屋「それが何か？」傳蔵「**いや……何でもねえ**」 |
| 光抱く 62 | 千枝「手紙？　なんね、それは？」涼子「（強く千枝を睨む）」千枝「手紙って、何のことね？」涼子「**何でもないんです**」 |
| 風に 229 | 良一「…声はせんかったか？」光恵「声？」」良一「『ダレダ？』って…『オマエハ、ダレダ？』って」光恵「（怯えて）どういうこと？」良一「**いや…なんでもなか**」 |
| 天国の 94 | 美亜「お母さん……（不安げな眼差し）」斎「なに？」美亜、何か言いたげだが、言葉にできない。　美亜「**何でもない……**」 |
| ミエル 138 | 剛「（ボソッと）そうか…」幸介「どうした？」剛「**なんでもねぇ…**ちょっとゴメン」と剛は川の方へ歩いていった。 |
| 楽園 176 | 優「……ボケてない（と、呟く）」高志「うん？　なんか言ったか？」優「**あ、別に……**」 |
| 楽園 180 | 一之瀬「（来て）やっぱりワンちゃんだ」優「……！（マズイ）」一之瀬「ワンちゃん、何してるの？」優「**いや……別に……**」 |
| センセイ 94 | 先生「鮎が、どうかしましたか？」月子「え？　**い、いいえ、別に……**」先生「（首をかしげて）――」 |
| あかね 160 | 傳蔵「それがどうかしたのか？」秀弥「いえね、親分が先だって教えろとおっしゃったもんですから……この歌が何か？」傳蔵「**別にてえしたことじゃねえ**」 |
| マチベン 150 | たまを「えっ？　百戦錬磨の後藤田先生が？　裏切ったんやなくて、裏切られたん？」後藤田「はい。こっぴどく」たまを「なんで？　どんなことで？」後藤田「**大したことではありません**」村山「も、もしかして……女性関係ですか？」 |
| 恋せ 199 | ［電話］川出の声「あ、あ……わたしは……あ、間違えました」雪緒「待ってください、川出さんですよね？」川出の声「ああ……」雪緒「どうかなさいましたか？」川出「**別に大した用事ではないんだ**」 |
| 本当 86 | 章次「（ちょっと隅に立っていて、電話）うん――うん――それでオッケー。あとは月曜に私一番で行くから――」（中略）章次「いや、なにもない。**なにもないことはないが、たいしたことじゃない**――ああ、休みに、急に悪かった。ありがとう――はい、御苦労さま（と切る）」 |

| | |
|---|---|
| 大麦 22 | ［結婚した理由］文子「私もそうだったの？　体格で決めたの？」徹郎「……体格ってわけじゃないよ。健康が一番って……」文子「おばあちゃんがそう言ったの？」徹郎「**ん？　うん……忘れたよ。昔のことなんか……**しょんべん（家の中に逃げる）」文子「……」 |
| マチベン 171 | 裁判長「被告は、その発言をしたのですか？　それとも、しなかったのですか？」和彦「**……覚えていません**」 |
| マチベン 142 | 涼子「私は、あなたが落書きをしているところを、ゆりかさんに止められたのではないかと推測しますが、間違っているでしょうか？」和彦「**知るかよ！**」 |

### 4-9　質問と全く関連のないことを述べる

用例としてすべては採取していないが、質問の内容と全く関連のないことを述べ、質問を無視することによって、回答する意図がないことを示す場合がある。

| | |
|---|---|
| 対岸 96 | 葵「海の近くに住んでた？」小夜子「うん。葵さんは？」葵「（それには答えず）**……海ってさ、なんか浄化作用あるよね……**」 |
| マチベン 135 | ［弁護士が被告人の嘘に気付く］神原「このまま、知らん顔をしろということですか……？」太田「（聞こえぬふりで）**法廷では驚かされたが、逆に言えば、今は有利に和解をもちかけるのに、絶好のタイミングだ。腕の見せ所だよ、神原君**」神原「……」 |

グライス（1998）の「協調の原理」における「関係の格率」から説明すれば、実はこのような回答は質問に全く関係がないとは言えず、質問に回答する意図がないということを示す発話行為として成立するとも言える。

## 5.　終わりに

今回の調査では、9 項目の分類ができたが、十分な数の用例が得られていないため、現在ある用例の範囲内での暫定的な分類を行った。今後、更に用例を増やせば、分類に修正を加える必要も出てくると予想される。また、表現選択にはポライトネスの問題なども影響を与えるので、その点についても検討しつつ、更に研究を進めたい。

## 用例資料

以下、【　】内は作品名の略称を表す。

・日本脚本家連盟『テレビドラマ代表作選集』

（2004 年版）筒井ともみ「センセイの鞄」【先生】／清水有生「あかね空」【あかね】／中園健司「楽園のつくりかた」【楽園】

（2005 年版）鄭義信「六月のさくら」【六月】／大森美香「不機嫌なジーン」【不機嫌】

（2006 年版）鄭義信「うみのほたる」【うみの】／山田洋次ほか「祖国」【祖国】／遊川和彦「女王の教室」【女王】

（2007 年版）前川洋一「大麦畑でつかまえて」【大麦】／清水曙美「光抱く友よ」【光抱く】／神山由美子・藤本匡介「対岸の彼女」【対岸】／井上由美子「マチベン」【マチベン】

（2008 年版）竹山洋「点と線」【点と線】／大石静「恋せども、愛せども」【恋せ】／坂元裕二「わたしたちの教科書」【教科書】

（2009 年版）山田太一「本当と嘘とテキーラ」【本当】／竹山洋「霧の火～樺太真岡郵便局に散った 9 人の乙女たち」【霧の火】／古沢良太「ゴンゾウ～伝説の刑事」【ゴンゾウ】

（2010 年版）渡辺あや「火の魚」【火の魚】／佐伯俊道「長生き競争！」【長生き】／橋本裕志「官僚たちの夏」【官僚】／大友啓史「白洲次郎」【白洲】／吉崎洋子「風に刻む」【風に】

（2011 年版）鎌田敏夫「シューシャインボーイ」【シュー】／青木豪「ミエルヒ」【ミエル】

・『ドラマ』2013 年 12 月号

古沢良太「リーガルハイ　第 1 話」【リーガル】／中島丈博「天国の恋　第 1 週」【天国の】

## 参考文献

ポール・グライス（1998）『論理と会話』清塚邦彦訳　勁草書房
（原著 Paul Grice, *Studies in the Way of Words*, Harvard U.P., Cambridge, 1989）